



★ 学習管理の仕方

- ① 学習の始めに、学校進捗を確認して学習日を学校進捗欄に記入する。
- ② 勉強した (Check Point! と Try Out! をした) 日付を学習日欄に書き込む。
- ③ 再度 Try Out したときに全問正解は○、1 問間違えたら△、2 問以上間違えたら×を TO 欄に記入。
- ④ △の単元は間違えた問題のみを解き直し。×の単元は再学習し、学習した日付を再学習欄に記入。

難度	No	タイトル	学校 進捗	学習 日	TO	再学 習日
	1-1	整式				
	1-2	整式の計算				
	1-3	公式による展開				
	1-4	置き換えによる展開				
	1-5	組み合わせを利用した展開				
☆	1-6	3 次式の展開				
	1-7	公式の因数分解				
	1-8	たすきがけの因数分解				
	1-9	置き換えを利用する因数分解				
	1-10	複数の文字の因数分解				
	1-11	式のたすきがけ				
☆	1-12	複雑な因数分解				
☆	1-13	3 次式の因数分解				
	1-14	有理数・無理数				
	1-15	循環小数				
	1-16	絶対値				
	1-17	$\sqrt{\quad}$ をふくむ式の計算				
	1-18	分母の有理化				
☆	1-19	3 項の有理化				
	1-20	式の値				
☆	1-21	整数部分と小数部分				
☆	1-22	二重根号				
	1-23	1 次不等式				
	1-24	連立不等式				
	1-25	不等式を満たす整数 / 係数に文字を含む不等式				
	1-26	不等式の文章題				
	1-27	絶対値をふくむ方程式				
	1-28	絶対値をふくむ不等式				

難度	No	タイトル	学校 進捗	学習 日	TO	再学 習日
	2-1	集合と要素				
	2-2	部分集合				
	2-3	共通部分と和集合				
	2-4	3 つの集合				
	2-5	補集合				
☆	2-6	いろいろな集合問題				
	2-7	命題と集合				
	2-8	必要条件と十分条件				
	2-9	条件の否定				
	2-10	逆・裏・対偶				
	2-11	対偶を利用した証明				
	2-12	背理法を利用した証明				
☆	2-13	背理法を利用した証明・その 2				

難度	No	タイトル	学校 進捗	学習 日	TO	再学 習日
	3-1	関数 $f(x)$ と変域				
	3-2	2 次関数 $y = a(x-p)^2 + q$ の グラフ				
	3-3	$y = ax^2 + bx + c$ と平方完成				
	3-4	点とグラフの平行移動				
☆	3-5	$f(x)$ の平行移動と対称移動				
	3-6	関数の最大値・最小値				
	3-7	最大値・最小値から係数を決定				
	3-8	係数に文字をふくむ関数の最小 値または最大値				
☆	3-9	係数に文字をふくむ関数の最大 値と最小値				
☆	3-10	定義域に文字をふくむ関数の最 大値・最小値				
	3-11	$y = a(x-p)^2 + q$ を利用した 2 次関数の求め方				
	3-12	$y = ax^2 + bx + c$ を利用した 2 次関数の求め方				
☆	3-13	平行移動を利用した 2 次関数の 求め方				
	3-14	2 次方程式				
	3-15	2 次方程式の実数解の個数				
	3-16	解から方程式を求める				
	3-17	2 次関数のグラフと x 軸との 位置関係				
	3-18	放物線と直線の共有点と x 軸の共有点の長さ				
	3-19	放物線の係数の符号とグラフ				
	3-20	2 次不等式 (異なる 2 点で交わる)				
	3-21	2 次不等式 (接する・共有点をもたない)				
	3-22	連立不等式				
	3-23	2 次関数と x 軸との共有点 まとめ				
☆	3-24	解から 2 次不等式を求める				
☆	3-25	絶対不等式				
☆	3-26	放物線が x 軸の正と異なる 2 点 で交わる条件				
☆☆	3-27	絶対値を含む関数				
☆☆	3-28	2 次関数に関する応用問題				